



## < 運営推進会議における評価\_様式例 > ※公表用

### 【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 京都悠仁福祉会	事業所名	複合型施設鳳凰槇島
所在地	(〒611-0041) 京都府宇治市槇島町大川原 35-5		

### 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・今年度も昨年度と同様に感染予防対策の徹底を行ったが、8月以降、利用者・職員共数名が新型コロナウイルスに感染した。いづれもクラスターにはならず。引き続き送迎時には乗車前の検温・手指消毒、車中の換気に留意をして送迎対応を行い、施設内では、通所時間内に手すり等利用者が触れる所を定期的に消毒作業を行うなど感染対策を講じている。施設内でクラスターが起こった事を想定したシュミレーション感染対策の研修も行った。
- ・他事業所では対応が難しい利用者や医療ニーズの高い利用者について、都度相談を受け利用に繋げられるケースもあった。
- ・地域住民との交流は昨年度同様コロナ禍で十分には出来なかったが、11月には地域企業向けに「認知症サポーター養成講座」を開催。12月はベランダにクリスマス飾り付けを行い、地域児童に目で見えて楽しんでいただける企画を実施。3月は集会所で地域児童対象のDVD鑑賞を予定(12月実施予定が第8波コロナ感染拡大の為延期)しており出来る範囲での地域住民との交流を図った。令和5年2月15日には宇治市主催の「宇治市人材研修事業」で看護小規模多機能型居宅介護～『多機能』だからできること～をテーマに事例を交えて看護小規模多機能の概要や魅力を発表することで、研修に参加された宇治市内の居宅介護支援事業所、病院職員の方にも知ってもらう機会を得ることが出来た。
- ・コロナ禍で十分な外出が出来ない為、少しでも利用者を楽しみをもって頂こうと月3回以上施設内で出来る行事企画を行った結果、利用者・家族にも大変好評であった。

### 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 12 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	( 13 ) 人 ※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	------------------

### 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2023 年 1 月 18 日	出席人数(合計) (書面含む)	( 13 ) 人 ※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 ( 4 ) 人 <input type="checkbox"/> 市町村職員 ( 1 ) 人 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( 1 ) 人 <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 ( 3 ) 人 <input type="checkbox"/> 利用者 ( 2 ) 人 <input type="checkbox"/> 利用者の家族 ( 2 ) 人 <input type="checkbox"/> 知見を有する者 ( 0 ) 人 <input type="checkbox"/> その他 ( 0 ) 人		

## ■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>職員間でのコミュニケーション、情報共有の強化、各専門会議の開催や内外研修への積極的な参加</p> <p>地域の自治体との協同避難訓練の実開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的なリモート研修・実開催への参加</li> <li>・情報共有を強化する為、朝・夕ミーティングの開催</li> <li>・施設内研修で全職員が1度は講師を経験しスキルアップを目指す</li> <li>・全職員が講師を担当する内部研修実施</li> <li>・有給休暇（メモリアル休暇）取得の推進</li> <li>・地域企業参加「認知症サポーター養成講座」の開催</li> <li>・水害訓練、消防避難訓練の実施計画</li> </ul>	<p>・今年度もコロナ禍で自治会会議、諸会合も参加は出来なかった。目標としていた地域住民との関係性の強化については、11月開催の地域企業対象の「認知症サポーター養成講座」、3月予定の「映画鑑賞」のみにとどまった。事業所の活動報告は広報紙の配布でお伝えは出来ているが、今後はコロナ禍でも違った形で地域の方々と出来る限り同じ目線で交流が図れる工夫が必要と感じる。</p> <p>・今年度は、開催時期に新型コロナウイルス感染症が拡大傾向であった為、地域共同の訓練はできなかった。</p>
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供            (評価項目 11～27)</p>	<p>※ケアプランについて記入して下さい。</p> <p>通所、訪問介護、訪問看護、宿泊サービスを多職種が専門性を持って提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテ（ケアカルテ）にて利用者の情報の管理実施</li> <li>・多職種で朝礼・終礼、カンファレンスを開催し情報共有を行い現状を把握しケアの提供実施</li> </ul>	<p>終末期ケア利用者は今年度もいなかったが、医療ニーズの高い利用者の積極的な受け入れを行い、利用者のニーズに応じた訪問看護、通所、訪問介護、宿泊のサービスを組み合わせ在宅生活継続に努めた。</p>
	<p>2. 多機関・多職種との連携            (評価項目 28～31)</p> <p>各々のかかりつけ医への情報提供から訪問看護指示書の発行、また急変時、緊急時に備えた情報共有の実施。</p> <p>協力医療機関は宇治武田病院</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各医療機関への情報提供</li> <li>・医療ニーズの高い利用者への訪問看護指示書の発行</li> <li>・かかりつけ医や医療機関との迅速な連携、対応による受診治療や入院等の支援</li> </ul>	<p>・出来る限り住み慣れた地域で在宅生活を継続出来るように医療機関との連携強化に努め、利用者からの信頼度の向上や家族の安心感に繋げることが出来た。</p> <p>・協力医療機関の宇治武田病院、京都認知症総合センター、グループホーム事業所と</p>

				<p>の合同の医療連携会議が再開できたため更なる連携強化に努めている。</p>
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画（評価項目 32～41）</p>	<p>継続して、地域との関わりを重視し、地域の行事に参加するだけでなく、積極的に情報発信をおこない、地域から必要とされる事業所作りに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座の開催</li> <li>・地域の子供への DVD 鑑賞会</li> <li>・クリスマス飾り付け</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の広報紙の掲示や配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあるが、感染対策を講じて認知症サポーター養成講座を開催するなど地域へ向けた企画を実施した。ボランティアについては感染予防のため外部からの受入は出来なかった。</li> <li>・地域密着型サービスの役割を理解し次年度は、コロナ禍でも地域住民と関われる方法を模索して地域貢献に繋げたい。</li> <li>・毎月の広報誌以外にも号外の広報誌を作成。他、SNS を使った情報発信も開始。</li> </ul>
<p>Ⅲ. 結果評価 （評価項目 42～44）</p>	<p>今後も、質の良いサービス、質の高い個別ケアが提供できるように努めていきたい。 有給取得、労働時間の短縮等働きやすい職場環境作りに取り組み、職員の定着により、なじみの関係を作り更なるサービスの質の向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域運営推進会議内にて隔月毎の取り組み報告</li> <li>・満足度アンケート実施から業務改善を行いレクリエーションの充実</li> <li>・看取りについての研修実施</li> <li>・有給取得、労働時間の短縮の管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域運営推進会議からのご意見や顧客満足度調査の結果を踏まえ業務改善を行い利用者満足に繋げるように努めた。</li> <li>・職員教育では、ステップアップシートの活用、毎月 2 回以上利用者ケアに必要な研修を企画実施し、介護技術、知識を習得しスキルアップに努めた。看取りについては 4 月に書面にて研修を実施した。</li> <li>・看護小規模多機能の強みを活かし、医療ニーズの高い利用者も出来る限り在宅生活を継続出来るよう努めた。</li> </ul>	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	施設理念に基づいて、住み慣れた地域で生活を継続できるように柔軟なサービス提供に努めた。今年度は、自治会、地域住民・地域企業との交流の機会や協力を得ながら、地域への理解、貢献活動へ繋げていきたかったが、中々実現はできなかった。	引き続き、施設理念に基づいて、住み慣れた地域で生活を継続できるように柔軟なサービス提供には努める。アフターコロナで何ができるか?を具体的に考えて地域貢献活動に取り組む。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	月2回ケアカンファレンスを開催し、多職種連携にて利用者にとって快適なケアに努めた。かかりつけ医や協力医療機関への情報提供、介護、看護の情報共有や共通認識を強化した。利用者への安心、快適なケアに繋げる為、通い、訪問介護、訪問看護、宿泊サービスを提供し柔軟で充実した日常生活をサポートできた。	引き続き、利用者・かかりつけ医、協力医療機関、多職種連携にて情報共有を行い、利用者への安心、快適なケアにつなげ、利用者・家族にとって柔軟なサービス提供、且つ日常生活のサポートを行う。
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	医療ニーズの高い新規利用者の相談等積極的に受け入れに努めた。また主治医や関係医療機関との連携を図り、協力体制を整え円滑に在宅生活を送れるよう支援に努めた。	看護小規模多機能での利点を活かした医療ニーズの高い利用者の積極的な受け入れに努める。主治医や関係医療機関との連携を図り、協力体制を整え円滑に利用者が在宅生活を送れるように引き続き支援を行う。	
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	住み慣れた地域で安心した生活が継続出来るように、地域へ向けた行事等、自治会との協同、協力、理解を得ながら地域と施設の信頼関係を構築していく予定であったが、今年度もコロナ禍であり積極的に実施はできなかった	住み慣れた地域で安心した生活が継続出来るように、地域へ向けた行事等を企画し、自治会との協同、協力、理解を得ながら、地域と施設の信頼関係の構築を行う。	
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	新規利用者の確保、職員間のコミュニケーション、医療との連携、各関係者との情報共有、家族との関わり等、サービスの安定やケアの質の向上に努める。積極的な内外のリモート研修への参加、有給休暇取得の促進など、働きやすい職場環境づくりへ取り組む。在宅での看取りについても、職員の理解度は向上しており、看取りケアに取り組む姿勢等、受け入れる環境は整っている。 利用者・家族から希望があれば看取りケアを行っていきたい。	職員間のコミュニケーション、医療との連携、各関係者との情報共有や家族との関わり等を行い、サービスの安定やケアの質の向上に努める。有給休暇取得の促進、労働時間の短縮等、職員が働きやすい環境作りに引き続き取り組む。看取りケアについての研修を継続し、看取りの受け入れができる体制の構築をおこなう。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	→	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</li> <li>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていな い		
<b>(2) 人材の育成</b>							
<b>① 専門技術の向上のための取組</b>							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> 年度初めに各職員にキャリアパス等にて自己評価を行い、上席者が年2回評価を行っている。教育計画に基づき職員が講師となり、毎月職員が企画した勉強会実施。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> 教育委員会を主として本人の意向や上席者が本人に有効であると思われる研修を選び参加してもらうことでスキルアップにつなげている。					
<b>② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保</b>							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	○	←				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> 朝夕ミーティング、ケア会議、看多機会議等で多職種連携、ケアカルテの記録閲覧にて情報共有が出来ている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(3) 組織体制の構築</b>		<b>(3) 組織体制の構築</b>					
① 運営推進会議で得られた意見等の反映		① 運営推進会議で得られた意見等の反映					
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○				✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> 2か月に一度開催し、地域の方や利用者代表、包括支援センターから得られた助言を職員へ周知しサービスに活かしている。今年度は、感染対策の強化、継続等に注力しご利用者が安心安全にご利用いただけるように取り組んだ。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○				✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> 定期的なヒアリングから働きやすい職場環境整備に努めている。職員の希望に合わせ休みが取れるよう対応している。資格取得支援制度も活用している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○				<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 朝・夕のミーティングで申し送りを実施している。また、ケアカルテ(介護記録ソフト)に記載し、申し送りが必要な事項は赤字で表示。職員は必ず出勤時に内容を確認している。</p>					
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○				<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 職員1人につき1件/月以上のほつと報告書を作成するように促し、事故に繋がるリスクを事前に共有している。また、グループ内他施設の重大事故を水平展開することにより自部署の事故防止に努めている。</p>				<p>十分な気配りが行われている様子が見受けられる 事故に対する管理は大変であるがより一層の努力を願う</p>	



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築		② 災害等の緊急時の体制の構築					
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</li> </ul>
<b>II サービス提供等の評価</b>							
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> BCP（事業継続計画）の作成、年2回の防災訓練、年1回水害訓練を実施。感染拡大情報の周知、緊急時のマニュアルの見直しや、緊急時の職員連絡網の作成など、今年度も継続して緊急時の体制構築に努めている。具体的には台風等の天災の可能性がある場合にグループ内のマニュアルに準じて本人、家人にあらかじめ予告を行い、速やかなサービス提供に努めている。					
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> 利用者個々の24時間の生活状況等について把握に努め、集めた情報を記録に残している。しかし、新規利用時のアセスメントが弱いと感じる。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
							必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</li> </ul>
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</li> </ul>
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○				<p>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b>            利用者の状態を日々記録している。タイムリーな情報については、朝夕のミーティングで報・連・相を行う。また、ケア会議などで話し合い、状態変化に合わせた適切なケアを実施することが出来ている。</p>					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○				<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b>            泊りの多い利用者でも、週に1～2回は自宅で過ごして頂く時間を設けている。状態に変化があれば、報告し情報共有している。利用者宅への訪問は希望のある方には実施する他、アセスメントの結果、必要と思われた場合は本人・家族の意向を踏まえ、実施している。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</li> </ul>
<b>〔具体的な状況・取組内容〕</b> 主治医へは、必要に応じて看護師・介護支援専門員が連絡しており、退院時には病院のカンファレンスにもできるだけ参加し、関係多職種と情報を共有している。また、訪問看護報告書を作成し、毎月主治医に報告を行っている。							
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	○	←				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</li> </ul>
<b>〔具体的な状況・取組内容〕</b> ケア会議等で専門性を活かした役割分担を確認している。同一利用者に対し、訪問介護、訪問看護がある場合、分からないことやその時に得た情報などは共有しながら、必要に応じ役割分担できている。							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	○	←				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</li> </ul>
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</li> <li>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> 主に介護支援専門員が実施している。利用前には見学、お試し利用も実施している。契約時には重要事項説明書にて説明、同意を得ている。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> 医療的な留意すべき点については、主に看護師が利用者・家族に説明を行い、必要に応じて受診を促している。居宅介護計画書、看護小規模多機能計画書にも記載している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b>            看護師が通所時や訪問看護時に指導を行っている。具体的には今年度は、インスリン注射、ストマ管理、胃瘻対応等についてご利用者、ご家族へ説明を実施した。</p>					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b>            サービス開始時や状態変化した場合等もケアの対応方法について、利用者及び家族と共に決定している。具体的には、胃瘻時交換の対応について、医師と家族との連携にて臨時訪問介護を行い、家族の安心に努めている。</p>					



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○				<p>✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します</p>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b> ケア会議や臨時でカンファレンスを行い、その後、利用者家族に相談するようにしている。具体的には、認知症の妻と2人暮らしの本人の在宅生活が困難になってきていることを家族に何度も説明し、検討した結果、老健入所に至った。その他、各関係機関への相談連絡等様々な対応を主に介護支援専門員が窓口となり、利用者・家族に提示している。</p>					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○				<p>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</p>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b> 今年度は、終末期ケアの利用者はいないが、対応として看護師・介護支援専門員が主治医と密に連携を図り、医療関係職種より本人、家族へ丁寧に説明すること、その際の記録も残す体制を整えている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</li> </ul>
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○				<p>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</p>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b>            救急搬送の病院の把握はできている。急変時の対応が可能な協力医療機関も定めている。また、看護師が24時間オンコール体制を整えており、必要な指示を出している。協力医療機関との連携も行えている</p>					
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	○	←				<p>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</p> <p>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</p>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b>            自治会長や住民代表、榎島地域包括支援センター職員、宇治市役所介護保険課職員に参加していただき、情報共有や提案を行っている。具体的な質問や改善案が運営推進会議で提案されたときには、職員全員に周知され、共有できている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	○	←				<p>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○				<p>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</p> <p>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</p> <p>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している						<p>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</p> <p>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○	<p>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</p> <p>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている			○			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</li> <li>✓</li> </ul>
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されますそのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b></p> <p>関係医療機関、宇治市や地域包括支援センターに必要に応じて相談を行っている。地域で認知症高齢者を支えることを目的に、認知症サポーター養成講座を開催し認知症の人に接する際の課題やアドバイスを行った。</p>					



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	およそ でき て い る	あまり でき て い な い	全く でき て い な い		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○	←		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</li> <li>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>	
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b></p> <p>地域住民への介護力向上については、隣企業の方に参加してもらい、認知症サポーター養成講座を開催した。</p> <p>家族については、コロナ前には家族会を開催するなどしていたが、コロナ禍では、個別で相談を受け、個々にあった在宅でも可能な対応方法などを検討し、伝えている。</p> <p>槇島圏域小地域包括ケア会議に参加して、問題提起はできていると思われる。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> </ol> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> モニタリングにて計画目標が達成されているか確認している。</p>	大変努力されている様子がわかる。細部については更に自己努力で改善をお願いします。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> </ol> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 年1回、利用者及び家族に対して、満足度アンケートを実施し、アンケート結果を基に改善できるように努めている。</p>		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <b>[具体的な状況・取組内容]</b> 現在看取り希望はなし。		✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」

